

仙台赤十字病院

MMWINブース活動中です！

仙台赤十字病院様では、MMWIN の活用による連携および地域包括ケアを促進させるため、2018年4月9日よりブースを設置し、来院した患者様に対し MMWIN の紹介を行っております。このブース活動では、仙台赤十字病院様の先生等にもご協力をいただいた結果、紐づけ患者数が 1,000 名を超え、現在もその数を伸ばしております。仙台赤十字病院様は、このブース活動を元に、MMWIN を情報インフラとして活用する事により、医療機関と介護福祉施設間の効率的・効果的な情報連携を進め、地域包括ケアの実現を目指しております。

また、仙台赤十字病院様では、ブース活動と平行し、医師及び看護師の方等を中心に研修会を開催し、院内での MMWIN の活用を進めております。今後は、仙台赤十字病院様の関連施設等とも連携し、具体的な利活用を進めてまいります。今回の取り組みにより、他施設との情報のやりとりの手間を削減する事ができ、また、正確な情報の把握、口頭での情報共有が削減されるため施設間での情報連携ミス防止する事が可能となり、施設・患者様いづれにとっても大きなメリットがあると考えられます。

MMWIN としましても、仙台赤十字病院様の院内での活用は勿論、地域医療連携のネットワークが拡大するよう、尽力してまいります。

**ブース開設に興味のある施設様は
お気軽にご連絡ください！**

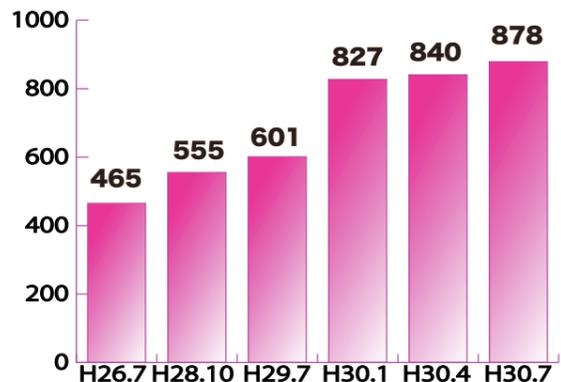
稼働状況

データで見る MMWIN の稼働状況です。

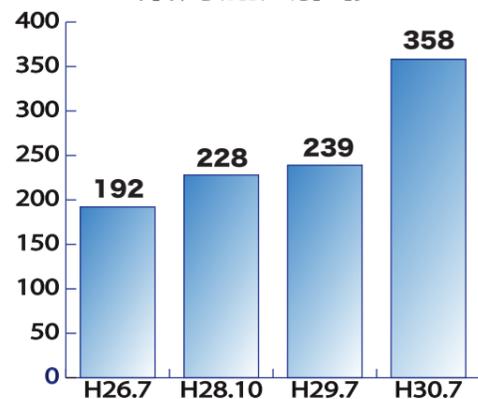
データ推移

両データ共に、順調な増加傾向にあります。薬局加入数は昨年度7月に比べて、約 1.5 倍の増加率となっております。皆様の MMWIN のご活用をよろしくお願いいたします。

参加施設数推移



薬局加入推移



※平成 30 年 7 月 4 日 時点



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-8633 仙台市青葉区大手町 1-5 宮城県医師会館 6 階 URL: <http://mmwin.or.jp>
 サポートセンター TEL: 022-399-6880 サポートセンター E-mail: support@mmwin.or.jp
 事務局 TEL: 022-395-6312 FAX: 022-395-6313 E-mail: office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
 『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
 ※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2018 MMWIN



エム エム ウィン
MMWIN 通信
 みんなのみやぎネット NEWS

2018
 7.27
 vol. **54**

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

登米市「生き生き健康フェスティバル」に参加してきました！

平成 30 年 5 月 26 日（土）に登米市主催の「2018 生き生き健康フェスティバル」が開催され、展示・体験コーナーにおいて登米市民病院様と合同のブース内で MMWIN への患者加入活動を行って参りました。

当日は約 1,500 名の来場者があり、展示コーナーへお立ち寄り頂いた方に MMWIN とは？ から説明し事業内容に賛同とご納得をいただいた 50 名の方に加入を頂きました。また、声掛けした方から「もう持っているよ」という回答が昨年よりも遥かに多かった事が、県北にも MMWIN が浸透してきているのだなと実感させられました。そして、登米市の熊谷市長自らもご加入いただきました。この事により登米市内での更なる MMWIN の拡充が期待できます。

皆様方の引き続きの御支援・御指導をお願い申し上げます。



加入活動の様子



待合室の様子

公立刈田総合病院で加入活動を行いました！

6/25 から 7/6 の 2 週間にかけて、公立刈田総合病院様透析室にて MMWIN の加入案内を行いました。

スタッフの皆さまのご協力のもと、治療中の皆さまへの簡易説明、治療終了後の詳細説明という流れでご案内させていただき、約 8 割の方にご加入いただきました。



通路の様子

活動初日には患者さんご家族から「この日を待っていた」とのお声もいただき、加入案内が実施できたことを大変嬉しく思いました。

引き続き、操作説明会実施等を行い、院内全体としてご活用いただけるよう進めてまいります。

大崎圏 伊藤医院

加美郡加美町 院長 伊藤健太先生

今回は加美郡加美町の伊藤医院 伊藤健太先生に MMWIN の活用状況、今後への期待についてお話をお伺いさせていただきました。

加美町（旧 中新田町）で循環器科・内科を開業しております。

患者さんの多くは加美郡内（加美町・色麻町）の方で、大崎市に隣接していることから、専門的治療が必要な際には多くの方が大崎市民病院のお世話になっております。主な連携先は大崎市民病院ですが、東北大学病院や仙台オープン病院など仙台市内の基幹病院に定期通院中の方も多くおります。地域柄 70～80 代以上の高齢者が多いこともあり、他院に通院していてもご自分の病名や病歴を説明できない方が少なくありません。そんな時、MMWIN で病名や投薬内容・血液検査結果を確認することで、他院での治療経過を確認することができます。また、病院・診療科によっては、入院サマリーも MMWIN にアップされているので、手術入院された患者さんの原疾患や術式、入院中の経過についても情報を得ることができて非常に役立っております。

逆に、当院かかりつけの患者さんが夜間休日に救急搬送された際には、基幹病院の先生方に、当院の処方内容や血液検査結果を参照いただくこともできます。検査結果や処方内容の確認以外に、以下のような活用例もありました。

〈活用例①〉

患者さんは採血されたらすべての項目を検査していると思っているので、心筋梗塞後の患者さんに血液検査を勧めるも『先週、他院外科で血液検査を受けて大丈夫と言われた』と断られた。MMWIN で他院の血液検査項目を確認したところ、腫瘍マーカーと肝腎機能・血算のみだったため、その旨を説明した上で、冠危険因子の管理のため脂質や血糖の検査を当院で追加した。

〈活用例②〉

当院の定期血液検査で腎機能悪化を認めた。MMWIN で他院からの内服薬を確認したところ、2カ月前に免疫抑制剤の投与が開始されたことが分かったため、先方の病院に薬剤による腎機能障害の可能性を伝えた。

〈活用例③〉

脂質異常症に対して当院からスタチンを投与していたが、MMWIN を参照したところ、他院からもスタチンを処方されていることが判明した。患者さんは、各病院毎にお薬手帳を持っていて計4冊。当院からのスタチンを中止した上で他院に脂質管理を依頼。次回からお薬手帳を1冊にまとめるよう患者さんに指示した（本来なら、かかりつけ薬局を1カ所決めるべきですが）。



待合室の様子

当院では、2017年12月からMMWINが稼働し登録患者数は100名を越えたところです。当初、『このあいだ大崎市民病院の待合室で勧められたけど、何だかよく分からなかったから断った』という患者さんが多かったため、現在では、大崎市民病院に数カ月毎に定期通院している患者さんおよびそのご家族には、MMWINのメリットを説明した上で、『市民病院に行ったら、エスカレーターで2階に上がってすぐ左側にMMWIN登録ブースがあるから、そこで市民病院と伊藤医院の診察券を出して登録してきてくださいね』とお話ししています。登録後、当院での診察時に大崎市民病院の血液検査結果や処方内容をお見せすると、どの患者さんもMMWINによる病診連携のメリットを実感されています。

〈今後について〉

当院では、電子カルテのバックグラウンドで常時MMWINを立ち上げておき、必要時に随時参照していますが、外来診療中に活用するにはストレスのないアクセス速度が必須です。今年3月のリプレース（アップデート）でアクセス速度が改善してストレスがかなり減りました。今後、画像共有も始まるのでますます便利になるとは思いますが、データ量の増加によりアクセス速度が低下することがないようお願いしたいと思っております。

今私が一番心配しているのは事業の継続性です。国の補助金による新規事業立ち上げは、補助金期間が終了すると運営資金不足のため継続できなくなる事例が多々あります。このMMWINを永続させるためには宮城県からの継続的なサポートが不可欠です。東日本大震災で沿岸部の医療機関が流されて医療情報も失った経験を持つ我が県なら医療情報のバックアップと情報共有の重要性を認識していると思っておりますが、まだ納税者である県民全体にMMWINが十分に認知されている状況ではないと思っております。県民に『我々にとってMMWINは不可欠。税金投入を惜しまない』という共通認識を持ってもらえるよう、MMWINや宮城県医師会からの情報発信も重要と思っております。

私は、2016年10月から理事長・院長の職を父より引き継ぎました。大正15年に開業して90余年、私で4代目になります。それまでは、東北大学病院循環器内科で不自由のない診療をしてきましたが、開業医になってみるとできることは限られているため、病診連携の重要性を今まで以上に感じております。MMWINは病診連携をスムーズに進めるために

有用なツールですので、まだ参加されていない医療機関の方にもぜひご参加いただきたいと考えております。先進的な成功事例を全国に発信していきましょう。



理事長・院長 伊藤健太先生



伊藤医院外観

伊藤健太先生
ご協力ありがとうございました。